

2013 年 5 月 10 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

バングラデシュ国 「チッタゴン石炭火力発電所建設事業」
(協力準備調査 (有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時 : 2013 年 4 月 5 日 (金) 14:03~16:48
- ・ 場所 : JICA 本部 (会議室 : 1 階 111 会議室)
- ・ ワーキンググループ委員 : 谷本委員、二宮委員、平山委員、松下委員
- ・ 議題 : バングラデシュ国 「チッタゴン石炭火力発電所建設事業」に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・ 配付資料 :
 - 1) ドラフトファイナルレポート(DFR)
 - 2) スコーピング案に対する助言への対応結果
- ・ 適用ガイドライン : 国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010 年 4 月)

全体会合 (第 36 回委員会)

- ・ 日時 : 2013 年 5 月 10 日 (金) 14:30~17:38
- ・ 場所 : JICA 本部 (会議室 : 2 階 229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. JICA は、石炭火力発電所の新設への支援において、石炭輸入の影響を含め、環境面から慎重な検討を行い、また、再生可能エネルギーによるエネルギー源の多様化および省エネルギーの推進への支援にさらに注力すること。これらのことを、JICA はバンングラデシュ政府にも働きかけること。
2. 本石炭火力発電所は最新鋭の技術を導入するものであり、実施機関は発電所運用の経験がないことから、建設および建設後の施設の運用・維持管理、環境項目の監視測定に関し、組織・体制作り・人材育成の方策を、法制度の整備を含めて、より具体的に報告書に記載すること。

スコーピングマトリックス

3. 建設期間中の環境管理については、深刻な影響が生じた場合の対応方法をより具体的に報告書に記載すること。

環境配慮（汚染対策、自然環境等）

4. 温暖化対策の観点から見た燃焼時における単位熱量当たりの燃料別 CO₂ 発生量の比較の記述を報告書に記載すること。
5. CO₂ の排出に関する高効率プラントの能力について、数字で具体的な内容を報告書に記載すること。
6. Summary of Environmental Impact Assessment に記載されている対策に関して、可能な限り定量的な評価も含めて、その効果を報告書に記載すること。

社会配慮（住民移転、生活・生計、労働環境等）

7. 児童労働が行われないように、実施機関が適切な措置を講じることを報告書に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

8. 地域住民から示されている懸念について、住民の不安を小さくするためのより具体的な対策を報告書に記載すること。

以上